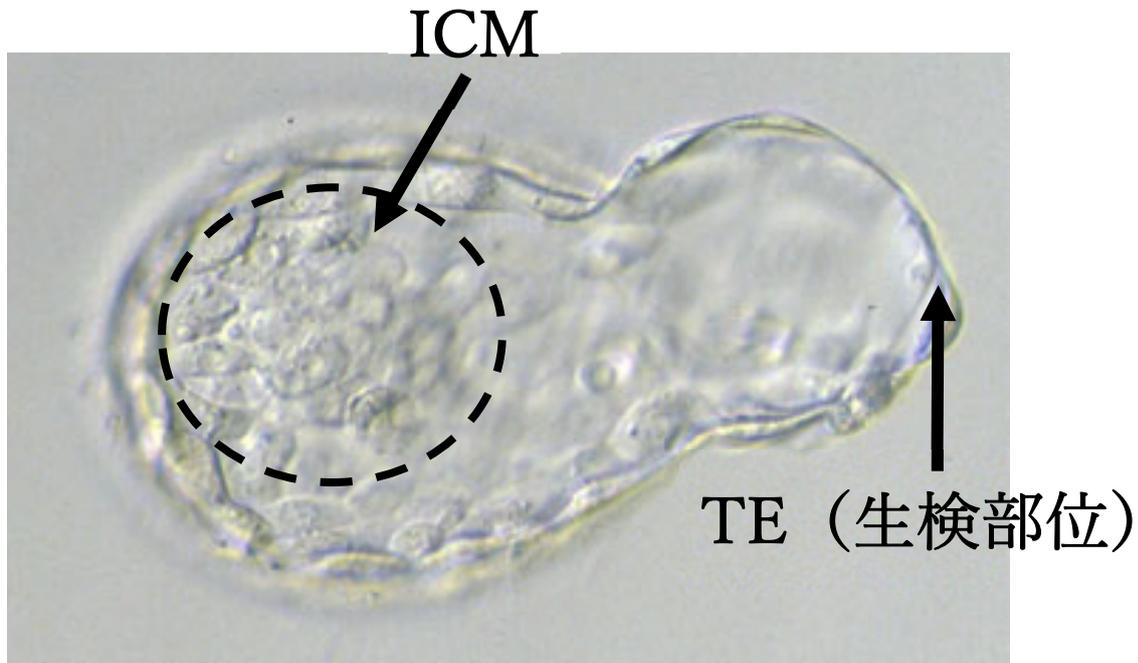


【着床前遺伝学的検査 (PGT)】

受精卵には遺伝情報を含む染色体が入っています。人間の染色体は1つの受精卵に23ペア、46本入っています。この数に過不足がある受精卵や、御両親の染色体に構造異常が認められ、その構造異常を引き継いだ受精卵は、子宮にたどり着く5日目までに発育出来なかったり、発育できても子宮に着床できなかったり、着床しても早期に胎児の寿命が尽きて流産してしまうことが大半であることが判ってきました。

着床前遺伝学的検査 (PGT) とは、受精卵の中でも胚盤胞の栄養外胚葉 (TE) の細胞を採取します。TEは主に胎盤に分化する細胞であり、胎児に分化する内細胞塊 (ICM) とは異なる細胞系列です。PGTにおいては生検で採取したTEの染色体データで、ICMのデータを予測しています。TEとICMのデータは一致するはずであり、PGTでは100%に近い診断精度があると予想されます。そのことにより、胚の染色体の異数性等をチェックできます。



TE：栄養外胚葉，主に胎盤に分化する細胞

ICM：内細胞塊，主に胎児に分化する細胞

当院は、PGT に関して播州地区で唯一の日本産科婦人科学会認定施設です。適応や費用等の詳細に関しては、お気軽に担当医にご質問ください。カウンセリングも含め丁寧に説明させていただきます。また、日本産科婦人科学会が説明動画を作成しており、PGT を希望される患者さんは視聴が必須となりますので、下記リンクよりアクセスいただき視聴をお願いします。

(日本産科婦人科学会リンク)

https://www.jsog.or.jp/modules/committee/index.php?content_id=256